

## 平成 29 年度 第1回北区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 29 年 7 月 20 日 (木) 午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
会 場	豊栄地区公民館 2階 大講堂
出席者	北区自治協議会委員 24名 (欠席6名) 教育委員:齋藤教育委員、山倉教育委員 事務局:教育長、教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐 豊栄地区公民館長、豊栄図書館長、北区教育支援センター所長 他4名 北区役所:地域課長補佐 傍聴者:0名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(齋藤教育委員、山倉教育委員) 3 平成 29 年度教育委員会の施策について(教育長) 4 意見交換(司会 北区教育支援センター所長) ① 地域で子どもを育てるために、地域と学校の関わりからみえてきた現状、今後必要と考える取組 ② より良い地域づくりのために、地域の皆さんと、公民館などの社会教育施設や学校とが協働してできることは
司会	一つめの視点について、皆様の地域での現状などはいかがでしょうか。
自治協委員	この会議の目的、ねらいと自治協議会本会と分けた理由についてお聞きしたい。 教育ミーティングですから、色々な方が参加すると思いましたが、私たち自治協議会の委員だけでした。それならば自治協議会本会でこの中身を説明してもいいのではないかと思います。 自治協議会本会は、行政に対して意見を提案するようになっていますが、教育ミーティングは、私たち委員の研修が目的なのか、教育委員会が意見を聞きたいのか。同じ自治協議会委員の集まりなら一つの会議にしないのか。その辺がよく分からないと、これからの発言もどう言ってもいいかよく分からないので、教えていただきたい。
教育長	教育ミーティングは、区の自治協議会委員の皆様と行う区教育ミーティングと、中学校区ごとで行っているものがあります。 区教育ミーティングについては、関係部会の委員だけより、全委員で教育のことについて話をしたいという要望が各区からありました。そこで、自治協議会委員の皆さんから、地域の実情、地域の方の生の声を教育委員の皆さんが聞いて、それを理解したうえで全市的な教育施策について考えようということで、各区を担当している教育委員が、区の皆さんからお話を聞いたり、ご要望、ご意見を聞いたりしています。 これだけでかなりの時間を要しますので、自治協議会本会の中に組み込んでしまうと、会議1回分が全部なくなってしまうことから、別開催をお願いしています。 ただ、委員の皆さんの負担を少なくするために自治協議会と同じ日の、その前に時間を取っていただき開催しているところです。
自治協委員	そうすると、私たちは自治協議会の中身と一緒に心構えで聞いて、発言すれば良

いということですね。分かりました。

自治協委員

昨日、区長と語る会に参加しました。そこでは会を始める前に、小学校及び中学校の校長先生から、学校の現状を毎年説明いただき、地域の皆さんと意見交換をしています。

私はこのやり方が、すごく地域と密着した教育ミーティングじゃないかと思いましたので、ほかの地域や区でも、自治会など、関係者の皆さんと、学校側との話し合いの場を持っているのかどうかお聞きしたい。

教育委員会  
事務局

本日開催の区教育ミーティングと、もう一つ中学校区教育ミーティングというものがあります。中学校区教育ミーティングは、校長先生を中心とした学校の先生方と地域教育コーディネーター、地域のコミ協の方、PTAの方からお話しをうかがうものです。

平成 26 年度から開催している中学校区教育ミーティングは、最初の3年間は「パートナーシップ事業」をテーマとして、地域と学校の連携について意見交換をさせていただきました。

今年度からは「防災教育」をテーマとし、区担当の教育委員が、地域の方々が一生懸命取り組んでいらっしゃることや、地域の実情を伺い、意見交換を通じて勉強させていただいています。

自治協委員

今ほど、教育長が説明された中に、「こういう方向で地域にやらせてもらっています。」という内容のものがあつたと思います。

教育長が、「こういうことを学校でやってください。」「ここに載っているような催し物をやってください。」と指示したことを学校が実施しているのか。また、地域として、それぞれの学校で計画した取組をここに載せてあるのかをお聞きしたい。

今年、濁川小中学校と一緒に、1か月に1回、部活も何もない日を決めて、授業が終わったら、すぐ家に帰って、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんと一日、その日だけじゃなくても良いそうですが、食事に行ったり、色々なことを話し合ったりする機会を設ける「絆の日」を実施するとのことでした。

私は初め、それを全市でやると思って、学校からご承認くださいと言われ、いいことだと思って承認したのですが、後でお話を聞いたら濁川小学校、中学校だけだとのことでした。ああそうなのか、それでもやれるのであればいいことだなと思ったのです。

しかし、さきほどの教育長から「こうやっています。やらしています。やってもらっています。」という説明ですと、教育委員会が発想した取組なのかなと感じたものですから、お聞きしたいと思います。

教育長

今ほど説明しました教育委員会の施策についてというのは、教育委員会ではこんな取組を行っていますという紹介です。

もちろんこれに加えて、各学校やそれぞれの地域、今、濁川小中一緒にということでしたが、中学校区単位や各小学校独自に、新潟市教育ビジョンの「学・社・民の融合による教育」という考え方の中で、それぞれの学校が工夫しながら実施している事業や、育成協やPTAの方々から提案をいただいて行っている事業は、これ以外にもたくさんあると思います。

「絆の日」はとてもいい取組だと思いますので、それを教育委員のお二人が他の教

育委員に濁川の実践を紹介すると、他の教育委員も「じゃあ自分が担当している地域に行ったときに、良い取り組みとして紹介する」ということになります。

これは教育委員会としての取組ではなくて、それぞれの地域、学校で、こんな取組をしているという良い例として、いろいろな場で紹介していきたいと思います。

自治協委員 ありがとうございます。それをお聞きして、地域の発想でやるのであれば、地域をあげて、自信を持って全力投球で応援していきたいと思っています。

教育長 先ほど、このミーティングは何の目的でというご質問もございましたけれども、地域の取組を聞かせていただくというのも、ミーティングの大きな目的になっておりますので、私の地域ではこんなことやっているというものがありませんでしたら、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

自治協委員 私は小学校で教育コーディネーターをしています。6、7年間学校を見てきましたが、学校は色々なことを行っていると実感していて、説明資料の中にも色々な取組が記載されています。ただ、これが全てパートナーシップ事業でやっていると思われれば、コーディネーターはイベント屋みたいなイメージを持たれてしまうという危惧があります。

コーディネーターは、日々子どもたちの生活に寄り添っているという学校が多いと思いますので、地域の方にイベント屋と誤解されないようにしていただきたいと思うのと、非常にいい取組なので今後とも続けていただきたいと思います。

更に付け加えると、学校の先生方は、本当に大変だと実感しています。小学校にしろ、中学校にしろ、もう少しコーディネーターの出務時間を1日いられるような体制であれば、より先生のサポートができ、地域の人からコーディネーターがいつ学校にいるのか分からないみたいなことにはならないと思います。予算の関係もあるかとは思いますが、それなりの効果は出せると思います。もう少しコーディネーターの体制を整えていただければ、学校も地域も、本当の意味での橋渡しができるのではないかと、日々感じております。

それと子どもたちの自転車の乗り方のマナーの悪さが目につきます。学校では警察官から来ていただくなど、大々的に子どもたちを指導しています。しかし、子どもたちは家に帰ってしまうと非常に危ない乗り方をしているため、地域でも何とかしなければいけないと言っているのですが、一地域で指導できるような状況ではない気がします。

いつか大きな事故が起こってしまったら、自動車も、歩行者も、自転車の子どもたちも危ないので、なんとかならないものかなと思っています。

私が小学生の時は免許証がないと自転車に乗れず、免許証の取得には非常に厳しいテストが毎年ありました。それは学校の先生がやってくれていましたが、今の学校の先生方には無理だと思います。そこで、市あるいは北区として、自転車の危険性についての取組に力を入れていただけたらと思います。

教育委員会 今ほどいただいたご質問、ご意見の中から二つ、私からお話しをします。

事務局 一つめは「イベント屋にはならないんだよね」というご質問についてです。

地域教育コーディネーターは今、全ての市立学校(高校を除く)に配置されていま

す。それぞれの方が毎日のように、地域と学校のネットワークを作るために陰日向なく関わりを持っていただいて、ボランティア活動や地域貢献活動を準備するお仕事をしています。その取組の中には、本日ご紹介できないあまり目立たないものから、イベントのように、少し目立つものまで様々なものがあります。

ですが、目立つものだけではなくて、日々行っている学校と地域の取組は、全て大事なものだと思っています。自治協議会の委員の皆様が各地域にお戻りいただいた際に、学校やコーディネーターの皆さんと関わりを持っていただければ、うちの学校はボランティアがたくさん来てくれるし、子どもたちがスムーズに学習ができるように、地域の方とのつなぎ役をしている、などに気が付かれると思います。

二つめは「地域教育コーディネーターが学校に常駐できるといい」というご意見です。地域教育コーディネーターは、現在時間制で執務をしていますが、丸1日学校にいていただくことは、残念ながらできません。限られた時間の中で地域と学校をつなぐお仕事をしています。

この事業が11年目に入りまして、当初の頃に比べて、格段にコーディネーターへの期待、そしてご要望が多くなっています。これは地域の皆様が学校に対して、あるいは学校の先生方、子どもたちや、地域の皆さんに対してのご希望、ご期待が多くなってきた表れだと思っています。

その分コーディネーターの執務が大変苦しくなっているというのは、私達も認識をしております、なんとかしていきたいと思っているところなのですが、なかなか思うように進まないというのが正直なところですが、国にも要望を毎年繰り返し言ったり、関係各部署にも話をしたりしながら、すこしでも改善できれば良いと思っています。

また、学校と地域の皆さんのネットワークづくりをコーディネーターが行っていますが、ぜひ地域の皆様も学校の先生方と関われるチャンスを見つけていただいて、直接お話しをする機会があれば語り合ってくださいということも、より一層大事なのかなと思っていますので、よろしくをお願いします。

教育委員会  
事務局 今ほど自転車の乗り方等についてのお話もありましたので、各学校に伝えていることについてお話いたします。

交通事故に関しましては、昨年度からずっと件数が多い状態が続いています。4月から毎月の校長会及び教頭会で、交通事故防止、特に自分の身は自分で守らなければいけないということの指導を、繰り返し行っております。

ただ、このような指導の中でも、皆様ご存じのように今年7日、市内の小学生が交通事故で亡くなるという、本当に痛ましい事故が起きました。そのような件を受け、再度学校にも指導をお願いしました。学校の先生方は交差点では止まりなさいとか、左右を確認しなさいとか、一旦停止しなさいということ子どもたちに指導するのですが、子どもたちは身が入っていないとか聞き流してしまいます。また、他人事だと思ってしまうところがあり、今回の事件のことを例に挙げるのは申し訳ないのですが、具体的などころから、本当に他人事ではないということの指導を、各学校、確実に行ってくださいと、話をしてあります。

しかし、そのような現状の中でも、毎日のように交通事故や救急搬送の報告は、私

どもに上がってきていますので、今ほどお話しがあったように、地域でできることはな  
いかと言っていたのですが、危険な自転車の乗り方をしているとか、交差点、  
道路で危険な遊びをしているとか、そのような状況をご覧になりましたら、いつでも結  
構ですので、学校もしくは教育委員会に連絡していただきたい。

目撃したものが事故に結び付くということは十分考えられますので、そういう意見を  
どんどん聞かせていただき、事故が多発している現状ということを、学校に、他人事  
ではないという話をしながら、なんとか事故防止に努めていきたいと考えております。

交通事故の多発は喫緊の課題と考えて取り組んでおりますので、ご協力のほどよろ  
しくお願いいたします。

自治協委員

私は以前学校に勤めていましたので、学校側の立場で話をさせていただきます。

地域と学校パートナーシップ事業が始まってから丸10年になりますが、地域教育コ  
ーディネーターが市内全学校に配置されたおかげで、学校へ足を運んでくださる大  
人の方々が本当に多くなり、大人と子どもの、多種多様な関わりが生まれたと思いま  
す。

最近では人間関係が希薄で、特に自分は孤独だと感じる子どもが多くなり、自己肯定  
感がとても低くなっている。そういう子どもが多い中、この事業のおかげで、すごく改善  
の方向に向いているなどと思います。

自己肯定感の低さというのとはとても気になっており、様々な問題行動の要因となっ  
ていました。でも、たくさんの方に、授業の中で、また見守り活動の中で関わって  
もらっているおかげで、子どもたちは自分のことを認めってもらったり、先生や親がほめて  
くれないようなところで、ボランティアに来た方がほめてくれたりします。そんな顔と名  
前が見える関係や、相手が分かってくる関係の中で、子どもたちは着実に自己の有  
用感を持ち、そして自己の肯定感を育てています。それが子どもたちの意欲と笑顔に  
つながってきていると、とても感じています。

縦と横だけの関係では、とにかくくずれやすい人間関係ですが、そこに他人という斜  
めの関係が入ることで、心の中に、耐震構造のようにしっかりした筋交いができたと思  
っています。親に話せない苦しいことや、辛いこと、先生に話せないこと、それを地域  
のボランティアとして学校に来てくれるおばさんに、話をぼろっとしたりして、ちょっとに  
こっとして帰っていく子どもの姿もありました。そういう援助希求ができるような関係まで  
この事業は作ってくれているのだと思っています。

学校教育の中の量的な補完だけではなく、本当に質的な向上にも成果が出ていま  
す。また、ボランティアで入ってくれる方々も自己実現の場になって、そして学校に足  
を運んでくださる方がどんどん元気になっていく姿も、私は見てまいりました。こんな  
現状だと思います。

今後、必要となる取組って何なのかと、私が考えるに、みんなうちの子なんだという  
意識を地域で醸成していけたら良いし、地域と学校パートナーシップ事業についての  
正しい理解もしてもらわなくてはいけないと思います。

教育委員会は、この事業が何のためにあって、どういう効果が出てきていて、だか  
ら地域の人はどうしたらいいのか。という説明を詳しく細かく、地域の方にもっとも

説明していく。そういう時期が来たのだらうと思います。

また、国の第2期の教育振興基本計画に示されていますが、地域と共に歩む学校ではなく、地域と共にある学校なのだという、そういう意味を、校長先生方が深く理解し、そのうえで地域のために、学校は何ができるのか、どういう貢献が地域にできるのか、何が自分たちの地域を良くしていけるのかということ子どもたちがしっかりと考えていけるよう、校長先生のリーダーシップに期待しているところです。

子どもは家庭でしつけられる、そして学校で鍛えられる、そして地域で磨かれて育つといわれていますが、本当にそれぞれに役割が違っていることを自覚して、その役割については、責任を持って、そのうえでどちらにとってもウィンウィンの事業であってももらいたいと思っています。良い子どもたちを、地域で育てていけたらと思っています。

教育委員会  
事務局

大変貴重なご意見ありがとうございました。今、委員から色々なご感想、ご意見をいただいて、私どもも元気づけられた思いです。委員がおっしゃるように、まず子どもたちは地域の皆様との関わりで、嬉しいと感じることが多くなりました。これはアンケートの結果に出ています。昨年度ですと、新潟市内の小学生の80パーセントくらい、中学生の70パーセントくらいが地域の皆様からほめられてうれしいと思うと答えており、年々この数字は上がってきています。

地域と学校パートナーシップ事業を含めた、地域と学校との連携のおかげではないかと思っています。また、教育のプロとしての学校の先生方からも、自分はこの様子でいい。自分は頑張っている。自分をほめたい。そういう気持ちの自己肯定感が子どもたちに育っていると答えていただき、95パーセントを超える大変多くの先生からこの成果を感じ取っていただいています。

また、ボランティアに参加してくださった地域の皆さん、それから地域と学校の様子を知ってくださった皆さんからは、最初は学校に行きにくかったが、垣根が下がった。行きやすくなった。学校の様子が分かるようになったら親近感を持てるようになった。何か手伝いをしたい。という声や、ボランティアに参加してくださった方の中には、実は子どもたちではなく自分が元気になっている。という声もいただいています。

先ほどの委員からのお話のように、ウィンウィンの関係ができ、成熟してきたのであろうと思っています。

ただ、ご指摘いただいたように、このことは、まだまだすべての地域の皆様、市民の皆様にお伝えしきれているかという、まだ課題が残っています。先ほど、教育長からも地域と学校ウェルカム参観日というものを実施しています。というお話したのは、地域と学校の密接な関わりと良さを、広く地域の皆さんに見ていただきたいからです。

そのような機会をこれからも増やしていきながら、皆様のご理解をより一層深く、広くしていきたいと思っています。

自治協委員

大変素朴な質問をいたします。主な視点の一つ目、地域で子どもを育てるために云々というのですが、教育委員会がこのような視点を設けてきた意図と、地域で子どもを育てるということは、どの程度の内容やレベルで期待されているのかということです。

先ほどの交通安全の話で言えば、危険な自転車乗り云々ということについて、私ど

も学校に行く機会があって、そういう話は、日頃子どもたちの登下校の見守り、あるいは帰ってきてからの子どもたちの様子で、気になることについては声かけをしていることは事実です。また、地域の人もそういうことで協力してくれていると思います。

一方で、子どもたちは近隣の町内を見ますと、平日もさることながら土日においても、ほとんど町の中におりません。家の中に引っ込んでいるのか、どこに行っているのか。かつては色々な公園や、地域で遊んでいる姿を見たのですが、現在はなかなか見えないわけです。

そういう実情の中で、地域で子どもを育てると言われますが、私ども地域として、日々どういうことをすれば良いのか、教育委員会として何を願っているのかということです。それをお聞きしてから、現状と今後の取組ということを話し合うとミーティングの目的が少し見えてくるのかなと思います。

教育委員会  
事務局

教育ミーティングのテーマの根幹にかかわるご質問であるととらえております。子どもたちが育つのは、子どもの環境すべてと言えると思います。当然、学校は子どもを育てる機関ですので、子どもたちを育てています。しかし、子どもたちが育つのは、学校だけではないことは皆さんご承知かと思えます。家庭であり、地域であり、あるいは別の場面、部活動やサークル活動等、さまざまな場面で育つものだと考えております。

その中で、地域でも育てていただけるということが、その子の成長に役立つのではないのかと考えているところです。

ある調査によりますと、地域の皆様を含めた、日頃あまり接するわけではない大人との関わりの中で、子どもたちはコミュニケーション力が高まる。あるいは、へこたれない力が高まるという調査結果が出ているそうです。子どもたちを良く知っている親、家族、そして、子どもたちと毎日関わりを持っている学校の先生方からも、そのようなコミュニケーション力やへこたれない力が身に付いていくのでしょうか、様々な考え方や文化をお持ちの他の皆さんとのかかわりの中で、より一層コミュニケーション力やへこたれない力が身に付いていくのかなと思っています。

その一番間近にいるのが、同じ地域に住んでいる皆さんではないかと考えています。地域の皆さんがご自分の考え方、生き方を、子どもたちとかがわっていただきながら子どもたちに伝えていただくことは、学校教育とともにまた別の意味で子どもたちを育てるきっかけになるのではないかと考えています。そういう意味で、地域でも育てていただけるということはありがたいことだと思っています。

また、子どもたちは平日も休日も近くにいないというお話がありました。かつては、空き地があれば子どもたちが野球をし、鬼ごっこをし、缶蹴りをし、その中での関わる学びというものもたくさんありました。残念ながら、現在の状況からいくと、そのような機会が失われているのは事実です。その失われてしまった機会を、地域の皆さんと関わる場面を利用しながら、あるいは学校と地域が一緒になった取組の場面を利用しながら、少しでもかかわっていく場を増やしていきたいというのも、学・社・民の融合による教育、新潟市が進めている考え方の一つと思っています。

そのような構えで、地域の皆様からも、子どもたちを見守って、励まし、育てていただけるとありがたいと思っています。

自治協委員

ありがとうございました。だいたい想定した範囲内のお答えでありましたが、地域で子どもを育てる云々という中で、現状はさっきお話ししたとおりで、なかなか日頃子どもたちは地域で遊ぶ機会が少ない。あるいは私たちと関わる機会が非常に少ない状況になっています。

そういう関係から、各自治会では、子供会等の活動を充実させたいということを考えているのですが、子どもの減少と、保護者自身の意識の変わりよう、むしろ子供会がどんどん衰退しているというのが、地域の一つの傾向であります。それはどういうことかという、親自身が、子供会の存在意義をあまり認めていないというか、むしろ親子で土日になったら遊びに行くことを優先し、子供会の運営を面倒くさがり参加しなかったり、協力しなかったりという傾向があることが問題点だと思います。

私の町内も一時、子供会で、市の水族館見学に行くというので、どういうふうにして行くのですかと聞いたら、各自の車で直接水族館へ行き、入り口で待ち合わせて切符を買い、施設内を三々五々見て帰ってくるとのことでした。私は皆が一緒に行って、一緒に行動するというイメージを描いていたのですが、現実はそうではない。このような内容では自治会としての補助については考え直さなければいけない。

むしろ皆で一緒に行く、あるいは皆で行動を共にしながら、一緒に活動をするようなものに企画し直す方が良い。ということで、翌年からは少し改善が図られました。

要するに、保護者の意識がどんどん変わっているということです。学校からもPTAの役員はいやだ、輪番制でしょうがないからやるけど、1年経ったら終わり。ということが聞こえてきます。

地域においてもまさにそういう関係で、私ども見守り活動をしてしていますが、保護者はそうしたことに協力的ではない状況です。自分の子どもだから何とか時間を割いてほしい。という地域の人声もありますが、そうした一つの問題点に、私たちとしてもなかなか踏み込めないところがあります。子供会みたいなのは結構地域で改善できますが、保護者の意識については改善対象として考えられると思います。

それから先ほどコーディネーターの話がありました。コーディネーターは、地域とのパイプ役として大変頑張っています。それは非常にいいことであり、また学校を訪ねる地域の人也非常に増えていて、先ほどのご意見のように大変効果が生まれていると思います。ただ、一点、地域から見ると、コーディネーターが頑張れば頑張るほど、学校から地域への出向きがほとんど無くなりました。先生方が地域に出てこなくなったのでその学校の様子が見えてきません。

かつては、学校が地域にお願いすることがある時には、先生が直接地域、現場へ出て来ていましたが、今は、直に地域と先生方が交流する場面が減ってきました。これは最初から予測されたことですが、やはりそういう傾向があります。

私たちが見守り活動している朝の登校時や下校時に、たまには学校の先生からも活動している姿を見ていただきたいと地域の人言うのですが、ほとんど来ていただけない。

先生が忙しいことは分かりますが、学校と地域のパートナー云々とかいっても、ワンウェイでやっていると思います。学校はただただ、必要なときに地域に頼むけれど、地



域に対して学校はどういう働きかけをするのか。そういうところは、先ほどの委員の話で今後の課題だということですが、私も同じように考えております。

ただ、今日は光晴中学校の3年生が、午前中、地域貢献活動ということで、この暑い中色々な所に行って、いろんなボランティア活動を行っています。毎年、本当に熱心にやっている姿は、非常に私たちには好感を持って受け入れられていると思います。

司会

時間のほうも迫ってまいりましたので、二つめの視点に入らせていただきたいと思いますが。

自治協委員

いいですか一つめの視点でも。

地域と学校のかかわりから見えてきた現状ということで、私も地域で子どもたちや学校と一緒に色々やらせていただいています。その中で学校から地域にお願いするときはコーディネーターが入ってスムーズにいくのですが、逆に地域から子どもたちと一緒に授業のコマでやりたいという時に、コーディネーターを通して学校長にお願いしていただいても、地域の代表者から学校に来ていただき説明してほしい。と言われることがあります。そういった時に、コーディネーターがうまく間に入っていただくことができないものかと思います。

地域では、イベントなどを子どもたちと一緒にやりたいという目的があります。効果としては、地域の方と関わりができたり、色々な世代とかかわりができたりします。

私は南浜地区なので、外国の方との関わりができるという効果があると思った地域のイベントに、学校から、結果的にはそれが子どもたちにどう影響が出てくるのか、もっと効果を提示してほしいと言われました。そこで、今年度は学校と関わりを持つイベントをなくしてしまいました。

イベントというか地域行事を子どもたちと一緒にやる時には、効果もきちんとしたものを出さなければいけないのか、うまく地域と関わりができたというだけではだめなのかということ、学校と子どもたちに地域からお願いしたいときにどうすればうまく行くのかということをお教えいただければと思います。

教育委員会  
事務局

地域の方から学校に対してのご要望の時に、コーディネーターを介することは可能かということと、どう進めればいいのかというご質問だと思います。

地域教育コーディネーターは、地域と学校をつなぐネットワークづくりの仕事をしていますので、こういうことを学校に相談してみようという点について、コーディネーターにお話しをすることは可能ですから、どんどんしていただきたいと思います。ただ、コーディネーターが、それはできる、できないという判断はいたしません。あくまでもつなぐことがコーディネーターの仕事になりますので、最終的には校長先生が判断するという形になります。地域の皆さんから校長先生に、こういう意図でやっていきたいというご説明をいただく形になるかと思います。その準備、段取りの部分で、コーディネーターがお手伝いをすることになります。

当然、学校教育ですので、学校教育には目的がございます。学校の限られた授業時間、活動内容という制限もございますので、その学校に応じてお受けできる内容や場面と、なかなかそれが難しいという部分が出てくると思います。その部分については、ぜひ地域の皆さんと学校と直接語り合っていていただき、子どもたちにはこれをす

ることでどういいう良いことがあるのか、地域の皆さんにはどういいう良いことがあるのかを確認しながら進めていただけるとありがたいと思います。

残念ながら10お願いをして、学校は10全部OKですということは難しいと思います。今のうちの学校の子どもたちに必要な力はここで、地域の皆さんとやるとより一層力が高まる。というところを優先してやっていきませんか、多分学校はお話しをしていくと思いますので、ぜひその部分について、じっくりとお話し合いをしていただくとありがたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

自治協委員 私も仕事をしているものですから、学校に来てくれと言われても、1回、2回が限度です。

先ほど誰かがおっしゃいましたけれど、学校の方も会議に、例えば夜出ていただくという配慮があったら、お互いに、私も行くし、向こうからも来てくれるみたいなことができれば、ありがたいと思っています。

教育委員会 機会とか場所、場面ということについても、お互いに話し合いをしながらしていただく必要は、きっとあるのだろうと思います。

あくまでも、地元の地域の子どもたちを、学校も育てます、地域の方からもご協力いただくというスタンスでスタートしないと、なかなかうまくいかないと思います。

片方が言うこと聞いてくれないとか、自分たちがこうだということだけではなくて、お互いに折り合いをつけていただくこともとても大事なことだと思いますので、ぜひ、またやり取りをしていただけるとありがたいです。

自治協委員 私は3年ほど前から、子どもたちと関わる役につきまして、子どもと接する機会が多いのですが、子どもたちがだんだん減少してきて、だんだん子どもたちの声を聞くことがなくなってきた気がします。

学校のボランティアを探してもらえないかという話がきましたので、こういう人たちなら大丈夫じゃないかなと思う人を探して、学校に紹介したことがあります。でもその時、今の学校って、子どもが少ないのに、私たちがボランティアとして入らないといけないのかなという疑問を感じました。そう思いながらも、皆さんに話をした時、今、若いお母さん方やお父さん方は勤めているので、ボランティアとしては無理でした。

そこで、おじいちゃん、おばあちゃん、しかも元気な人をお願いしていきましたら、「えー、そんなのに行かないといけないの」と、皆さんそうおっしゃいました。しかし、ボランティアに参加してみようということで学校に行ってみましたら、やはり必要だということと、私たちも子どもたちから元気をもらえて、これはいいことだと知りました。また、行った人たちからも楽しかったという声をお聞きし、一人、二人と徐々にボランティアが増えていきました。

そうしているうちに、いろんなボランティア活動への参加依頼がありました。畑の作付けとか、畑の先生になってくれとか、彫刻刀を使うから危なくないように見守るなど、色々な学習の面で子どもたちと関わることができ、行った方たちからは喜びの声をたくさん聞きました。

コーディネーターは私たちボランティアと学校との橋渡しをしてくださっています。この勤務状態で、これだけの仕事をしているというのは、よほど家庭も犠牲にしているの

ではないかと思うくらい、私たちのところにまめに足を運んでくださいます、コーディネーターはすごく頑張っていると思います。

学校のコーディネーターの部屋に子どもたちが休み時間になると絵を描きに来たり、遊んだりしている様子を見るととてもほほえましいなと感じました。その時に、これでは部屋が狭いなと感じました。

子どもたちが減少して、空き教室があるなら、地域の人たちにその部屋を開放することはできないでしょうか。学校側からどうぞ来てください。何もなくてもどうぞ来て、そこで過ごしていただくというような部屋があったら、子どもたちと高齢者と、それぞれ地域の人たちと接する場所が、もっともっと増えるのではないかと思います。

最近、夏休みのプール解放が少なくなりました。それはどういうことなのかと聞いたら、学校がタッチしないでPTAが運営するので、子どもの少ない地域は、親が何回も監視に行く必要があり、多くのプール実施は無理な状況です。しかも自分の子どもが行くときは、親もついていかなければいけないというような話もお聞きしました。そういう理由により、夏休みに子どもたちがプールを利用する日が少なくなったのです。

ラジオ体操もそうです。私が育てた子どもの頃、夏休み期間中はラジオ体操を実施していましたが、今は8月のはじめ頃にはもうラジオ体操が終わってしまいます。私の地域では、ラジオ体操で子どもたちが集まるところに高齢者の方たちも来て、みんなで一緒にラジオ体操をします。しかし、子どもたちが1週間か10日くらいで来なくなってしまい、土・日曜も休みということで、ラジオ体操をする日が少ないのです。

もっと子どもたちを外の空気に接してあげたいので、何かいい方法がないかと思えます。それと、プールは親たちの責任ではなくて、教育委員会のほうでプールの監視員を1名くらいずつつけて、子どもたちに夏休み思う存分プール生活をさせてあげたいなという気がするのです。そこに高齢者のかたとか、地域の人が補助的に入っていただければ、もっと元気な子どもたちが育つのではないかと思うのです。

PTAに何かと責任が押し付けられていって、その負担に親がついていけない状況です。そうすると子どもたちは、暑かったら家の中でゲームをして、静かに事故のないようにすごささいという方向に、どんどんいってしまうのではないかと思います。

昔から考えたら考えられないような現状が、今、子どもたちの前に立ちはだかっているのではないかというのを、最近実感しました。

司会

申し訳ございません。ご注文をかなり頂戴いたしましたが、時間がそろそろ迫ってまいりました。お答えにつきましては、後ほど北区教育支援センターから、自治協議会等でお知らせをさせていただきたいと思えます。

自治協委員

時間もないようでございますけれども、簡単に手短かに一言だけ話させていただきたいと思えます。

より良い地域づくりという課題についてでございますが、私どもが地域で活動している、環境美化という国の事業がございます。

毎年地域の子どものたちと研修ということでバス1台を借りまして、夏休み、今年は29日の予定ですが、阿賀野川地域から我々の農村地帯の田んぼに流れる水の流れを勉強させようということで、『安田の頭首工』を見学することになっております。

子どもたちにはそれを研究させてから、県民いこいの森で休憩し、帰って来たらすぐ自宅に帰らないで、地域の公民館で子どもたちだけで反省会をし、一晩泊まって翌日各家庭に戻るという計画でございます。昨年も、県土木にお伺いしまして、新潟県の水の流れというものを勉強させていただきました。

子どもたちが地域の皆さんと一緒に研究、勉強の場を作っているわけでございます。子どもたちは地域に密着した形で活動しています。

また研究だけではなくて、地域の花壇の手入れ、花植え、これも地域でやっております。また、地域の伝統芸能の神楽舞いの笛や太鼓を子どもたちに教えていまして一緒に参加していただいています。暮れになりますと、賽(さい)の神行事も子どもたちと保護者と一緒になって、わら集めから協力していただいています。これも一つの教育の過程ではないのかなと感じているところです。

私の地域は、これからも子どもたちや保護者、地域の皆さんと一緒に交わっていきたいと思っています。また、各学校でコーディネーターの皆さんが活躍していますが、地域のそういう活動も見ていただきたいと思っています。

教育長からご説明いただきましたが、岡方中学校のひまわり街道の取組にも、地域の皆さんがもっと学校と交流を持っていただければいいかと思えます。

司会

大変ありがとうございました。時間が無くなりまして、第2の視点からのご意見をちょうだいすることができなくなりました。豊栄地区公民館と図書館から、資料を最初に付けさせていただいておりましたが、説明する時間が残念ながら無くなってしまいましたので、大変失礼ではございますが、配付させていただきました資料をご一読いただきたいと思えます。

これで意見交換を終了させていただきます。皆様から貴重なご意見、大変ありがとうございました。

議

事

5 北区自治協議会会長挨拶